

# SCREAL2011調査報告:

## 1. 調査の概要

2012.11.20

SCREAL委員会

# I. 調査の概要

- 調査対象機関
  - 45機関(国立大学 21、公私立大学 15、国立研究所 9)
- 調査期間
  - 2011年10月12日～12月31日
- 調査方式
  - Webアンケート(メールによる依頼→参加申込→回答)
- 回答数
  - 3,922(完全回答数; 推定回答率: 6.04%)

# SCREAL

- 学術図書館研究委員会
  - SCREAL; Standing Committee for Research on Academic Libraries
- 目的:
  - ✓ 学術コミュニケーションおよび大学／研究図書館に関わる調査研究を実施し、これにかかわる研究者の養成を図るために行われる事業について、図書館情報学振興と図書館業務支援の観点から後援および調整すること
- メンバー： 佐藤義則(東北学院大学)、逸村裕(筑波大学)、倉田敬子(慶應義塾大学)、竹内比呂也(千葉大学)、小山憲司(日本大学文理学部)、三根慎二(三重大学人文学部)

# 前回調査(2007年)

- 学術図書館研究委員会『学術情報の取得動向と電子ジャーナルの利用度に関するSCREAL調査報告(電子ジャーナル等の利用動向調査2007)』千葉, 学術図書館研究委員会, 2008.11, 251 p.
- Standing Committee for Research on Academic Libraries. *SCREAL Report: Results of a Survey on Information Access and E-journal Usage of Researchers and Graduate Students*. 2007, Chiba, 2008.11, 66p.

<http://www.screal.jp/>

# 調査の目的

- 学術情報の利用に関連する変化の把握
- 二つの課題
  - 電子ジャーナルをはじめとした学術情報の利用環境の変化が研究者の情報需要、および大学図書館に対する期待と要求に具体的にどのような影響を与えているか？
    - ⇒ 「電子ジャーナルの利用動向調査」
  - 研究者が、どのように論文を発見し、収集し、活用しているか？
    - ⇒ 「論文のリーディング調査」

# SCREAL調査

- 情報資源利用に対する意識と行動の変化
  - 浸透度、認知度、満足度、
  - 実際の利用状況、利用価値
  - ⇒ 図書館のアカウントビリティ
  - ⇒ サービスのマネジメント
- ⇒ 今後および将来におけるサービス設計、政策面での検討の基礎資料を提供

# 「電子ジャーナルの利用動向調査」

- 先行調査の質問項目の一部を踏襲し、時系列的な変化を確認する
- 「大学における電子ジャーナルの利用の現状と将来に関する調査」
  - 国立大学図書館協議会(当時)電子ジャーナル・タスクフォース(2001, 2003)
  - PULC(公私立大学図書館コンソーシアム = Private and Public University Libraries Consortium)  
(2004)

# 論文のリーディング調査

- King & Tenopir によって、1977年以来継続的かつ広範に行われてきた「情報利用行動調査」の基本的項目をもとに、日本語版を作製し、国際的な枠組みでの比較を行う
- 日本語版は、基本的に以下を元に作成  
Journal Use & Reading Patterns - Staff Survey.  
University of New South Wales, Sydney. (Sep – Nov, 2004) [http://web.utk.edu/~tenopir/nsw/staff\\_open.html](http://web.utk.edu/~tenopir/nsw/staff_open.html)